

第3章

将来人口推計

(第2期尾花沢市人口ビジョン)

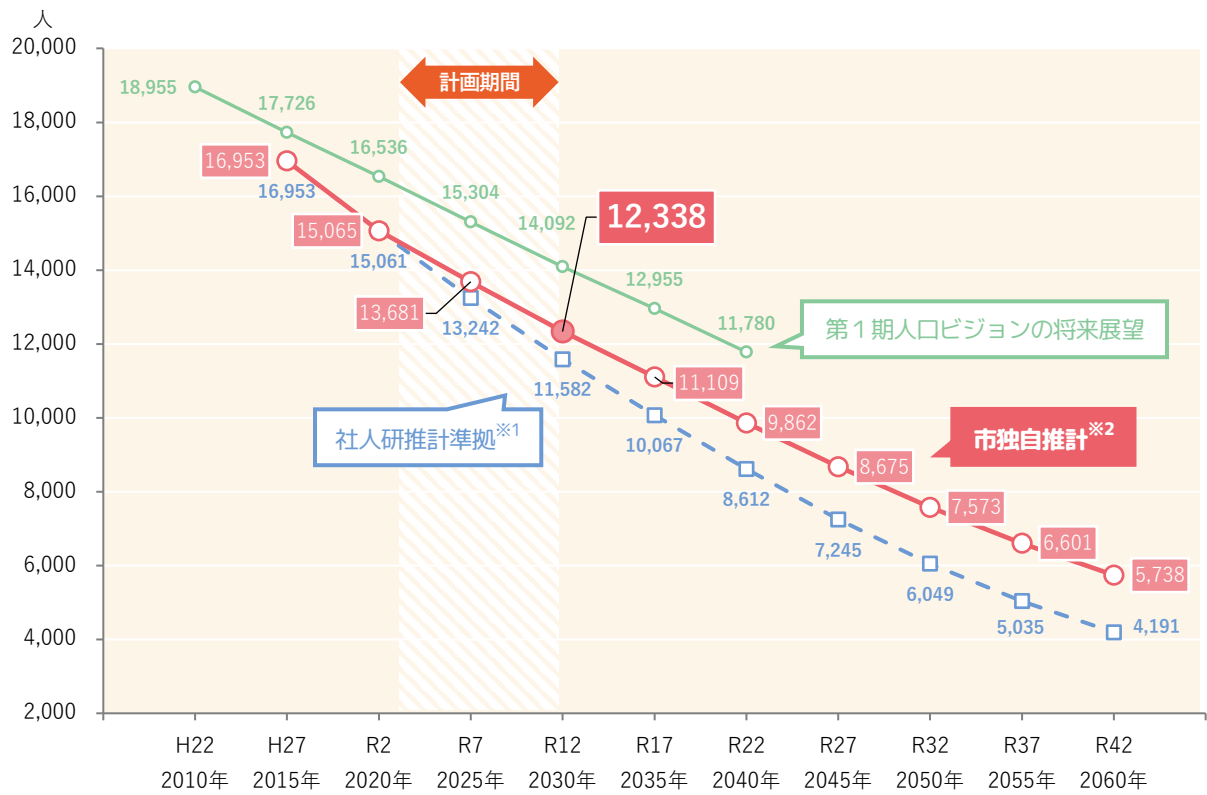
令和元年10月1日現在、日本の総人口は1億2,617万人であり、平成23年から9年連続で減少しています。また、15歳から64歳までの生産年齢人口割合も60%を下回り過去最低を記録しています。このような人口動態が今後も継続するものと仮定して、国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が推計した結果、約40年後の令和42年(2060年)は9,284万人と予測されています。

山形県の人口減少はさらに深刻です。令和元年(2019年)の山形県人口は108万人ですが、このまま減少傾向が続くと令和42年(2060年)に50万人程度、合計特殊出生率や社会増減が改善した場合でも70万人台に減少すると推計されています。

こうした中、本市においても人口の減少基調は今後も続く見込まれ、この傾向が続くと、本市の令和42年(2060年)人口は4,200人程度に減少すると推計されています。

この将来人口推計を踏まえ、生産年齢人口に影響する20~40代の若い世代の定着・回帰や子育てしやすい環境づくりなどに取り組むことにより、人口減少スピードを緩やかにすることを目指します。その成果として、計画最終年度である令和12年(2030年)の本市人口は概ね12,300人程度と推計されます。

令和42年(2060年)までの長期推計パターン



※1: 社人研の推計に準拠し、「まち・ひと・しごと創生本部」が推計したもの

※2: 国勢調査の実績に基づいて推計した令和2年の人口を基準として、令和7年以降の人口を推計したもの(市が独自で推計)